

桃谷中学校 元気アップ通信

令和8年5月

新年度が始まって一カ月がたちました。みなさんは新しい環境に慣れましたか？
覚えることが多い中なのでリラックスタイムをぜひ取り入れてください。

今月から図書館にある本の紹介や元気アップの活動などを紹介していこうと思います。
リラックスタイムに図書館の本を活用してみてください。

お知らせ 自主学習プリントについて

先月の通信で自主学習プリントについてお知らせしました。図書館が開いているときはいつ取り出してもかまいません。自分のペースで取り出して学習に使ってください。

3年生分は3階の進路資料コーナーのワゴンにありますので休憩時間や放課後等に取りてください。
1・2年生の学習の復習をしたいときは図書館まで取りにきてください。

また試験前には図書館に試験範囲のプリントを取り出しておきますので試験対策等に活用して下さい。
(スペースの都合上1・2年生のみ。)



いつも試験前に取り出して、「試験範囲分ってこんなにある〜」とか「このプリントがない〜」と言ってプリント置き場周辺が騒がしくなります。試験対策のための活用だけでなく普段から予習復習として活用することもお勧めします。

1学期は中間テストがありません。単元ごととか、習った箇所のプリントをその都度やっていくようにして、試験範囲の多さに悲鳴を上げることにならないようにお気を付けください。

学習系の本あります

図書館には学習系の本もたくさんあります。

『中学生の成績があがる！教科別ノートの取り方』メイツ出版 小澤淳

「できるノート」の鉄則や、テスト前や受験に活躍する「まとめノート」の作り方が載っています。

『中学一冊目の参考書』KADOKAWA 船登惟希

正しい授業の受け方やノートの取り方、5教科の攻略法、定期テストの対処方法など高校入試までつながる、勉強の勘所がマンガで楽しくわかります。

『流れが見えてくる日本史図鑑』ナツメ社 かみゆ歴史編集

日本史上重要トピックが時代順に掲載されていて、日本史の流れがつかめます。



裏に続く

名著に名書き出し

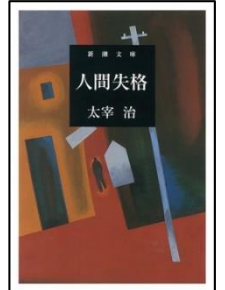
「小説は書き出しが命」と言われるように、小説の書き出しで、『読みたい!』とか『これはおもしろそうぞ!』と思うことがよくあります。

今回はそんな名書き出し作品を6冊ご紹介します。

『人間失格』 新潮社 太宰治

「恥の多い生涯を送って来ました」

昭和初期の作品ですが、令和の人と変わらない悩みを持っていたのだなと思える。他人とうまく会話ができない、他人が何を考えているのかわからないといった悩みを持っていた。うまく世間と適合するために考え出したのは「道化」だった。が、本当の自分を表現できない苦しみから酒や薬に溺れていく。そしてそれが書き出し文に繋がります。彼のラストはどうなったのか。ぜひ読んでみてください。



『吾輩は猫である』 KADOKAWA 夏目漱石

「吾輩は猫である。名前はまだない」

中学の英語教師の家に飼われている名前のない猫の目線で描かれている作品。飼い主やその家族、またそこに集まる人間達を観察し分析するその考えがとがっている。そしてその表現のされ方が面白い。



『推し、燃ゆ』 河出書房新社 宇佐見りん

「推しが燃えた。ファンを殴ったらしい」

主人公あかりには全てを捧げても構わないと思っている推しがいる。そしてその推しがファンを殴って炎上した。推しがいなくなったあかりはどのようにして前を向くのか。

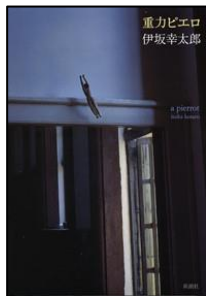
第164回芥川賞受賞作です。



『重力ピエロ』 新潮社 伊坂幸太郎

「春が二階から落ちてきた」

ネタバシですが「春」とは人の名前です。そしてまさしくこの書き出しの重力に引き込まれて一気に読みしてしまうかもしれません。実は複雑な春の家族。でも愛溢れる家族のお話です。



『走れメロス』 新潮社 太宰治

「メロスは激怒した」

教科書に載っているので今さらといった感じでしょうか。友情と信頼の物語ですね。こちらも太宰治の作品ですが、元ネタは古代ギリシャの神話『人質』だそうです。そちらも読んでみては？



『成瀬は天下を取りに行く』 新潮社 宮島未菜

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」

何度も通信に登場している「成瀬」ですが、名書き出し小説から外すことができませんでした。それほど名著です。

毎日を全力で生きる成瀬を見て欲しい。きっとあなたもファンになる！

今年の夏には最新刊にして最終巻の『成瀬は都を駆け抜ける』が入館予定！

今から予習としてぜひ読んでほしいです。

